

「生命のがん教育」を実施しました

(令和2年度3学期分)

令和2年度3学期は8校に出向き、「生命のがん教育」を実施しました。

◆授業形式

- (1) 医療従事者によるがんについての講義 (20分)
- (2) がん経験者のお話 (20分)

◆授業風景



(京丹波町立竹野小学校)



(井手町立泉ヶ丘中学校)



(平安女学院高等学校)

◎小学校 (1校)

| 実施日 | 実施校 | 学年 | 担当講師* |
|---------|------------|-----|----------------------|
| 3/5 (金) | 京丹波町立竹野小学校 | 5・6 | 中部総合医療センター 副院長 山岡 延樹 |

<児童の感想>

- ◇ 肺がんや胃がんなどのたくさんのがんがあることが分かって、友達関係も必要だと知れたので、大事にしていきたいと思いました。みんなにすぐに打ち明けて、みんなで方法を考えて、早く治すというのを行動したいです。今日帰ったらお母さんやおばあちゃんに、話してくれたことを話そうと思いました。
- ◇ がんは1/2の確率でなると聞いて驚いたし、がんを早くみつけないと、どんどん危険になるということが分かりました。僕のお母さんやお父さんに、がんになってほしくないの、「がん検診をしたら」と声をかけたいです。

◎中学校 (5校)

| 実施日 | 実施校 | 学年 | 担当講師* |
|----------|-----------------|----|---------------------------|
| 1/13 (水) | 京都市立西京高等学校附属中学校 | 1 | 京都府立医大附属病院 消化器内科助教 三宅 隼人 |
| 1/28 (木) | 宇治市立榎島中学校 | 3 | 武田総合病院 副院長 財間 正純 |
| 2/26 (金) | 宇治田原町立維考館中学校 | 2 | 宇治徳洲会病院 放射線治療科部長 立入 誠司 |
| 3/9 (火) | 京都市立洛水中学校 | 3 | 京都市立病院 小児科医長 矢野 未央 |
| 3/16 (火) | 井手町立泉ヶ丘中学校 | 1 | 京都山城総合医療センター がん診療部長 小池 浩志 |

<生徒の感想>

- ◇ 自分が今できる予防をしようと思います。また、家族に話して健康診断を勧めようと思います。知っ

ている人が病気になったら支えてあげるようにしたいです。心を元気に保つことで、たとえ病気になっても前向きにいられると思いました。自分の気持ちと他の人の支えが不可欠だと感じました。

- ◇ この授業で学んだことから、自分の身近な人でがん検診に行っていない人には、少しでもがんについて考えてもらえるように少し話題にしたり、自分も寝る時間をより多く取るなどの小さなことから少しずつ行動していきたいです。
- ◇ 早期発見、早期治療が大切で、「がんが見つかったらイヤだから」と診断に行かないのではなく、しっかりと判断することも大切であると感じました。
- ◇ 人は誰かの支えがあるから生きていけるのだと思いました。当たり前の日常のありがたさを知ることができました。普段通り生活ができていても、定期的に検査を受けることが大切なのだと思います。
- ◇ “がん”について、様々なことが学べました。特にがん検診についてはどれくらいのペースで受けるべきかが分かり、これからの生活を見直すきっかけになりました。
- ◇ 自分が“がん”とかになったとき、なっていないとき関係なく自分の前に立ちはだかる壁は自分自身で乗り越えないといけないし、周りで支えてくれる人に、感謝とか恩返しをできるようにしないとけないなと思いました。
- ◇ 当たり前の毎日が急に変わることもあると改めて思いました。普通に生活していても、「がん」になることもあるし、病気にかかることもあるからこそ、後悔の残らない日々を送ろうと思いました。
- ◇ 「がん」はなっていないと思っても、自覚症状があまりない時期があり、危険だということを知れました。
- ◇ “がん”は飲酒や喫煙などによって、かかる確率があがるということが分かりました。胃がんはなぜ発生するかの原因がピロリ菌であることを初めて知りました。自分は絶対、喫煙しないと強く思いました。これからできるだけ“がん”になりにくい生活をしようと思いました。
- ◇ 検査を受けるのが一番だと思った。「めんどうくさい・お金がかかる・また次に」ではなく、命に変わるからだからこそ家族だけでなく色々な人に言いたい(伝えたい)。1人で考えずにみんなで支え合うことがどれほど大切かを知れた。

◎高等学校（2校）

| 実施日 | 実施校 | 学年 | 担当講師※ |
|---------|--------------|----|-------------------------|
| 1/14（木） | 京都市立東山総合支援学校 | 1 | 京都第一赤十字病院 乳腺外科 森本 雅美 |
| 2/17（水） | 平安女学院高等学校 | 1 | 京都第二赤十字病院 呼吸器内科医長 廣瀬 和紀 |

<生徒の感想>

- ◇ 「がん」にならないためにも、食生活や身体の健康などを気にしながら生活したいと思います。
- ◇ これから家族に感謝して、もっとお手伝いをしていきたいです。大切な人もこれから守っていきたいです。
- ◇ がんは、たくさんの細胞が形成される中のコピーミス細胞であることを初めて知った。というか、がん自体がどのような過程で多くの人々を苦しめるのか知らなかったので、よい学習となったし、乳がんは女の人として検診に行くことは大切だと改めて感じたので、適齢になったら定期的に祖母と母と行こうと思った。
- ◇ 私は大丈夫と思っている人や家族に、今回学んだことを話し、今後少しでも多くの人々ががんについて知り、検査し、早期発見できる人が増えていって欲しいなと思います。がんになってしまった時の救いは友達だったと聞き、これからも友達を大切にすることはもちろん、もし周りで病気になってしまった人がいたら寄り添い、手伝える人になりたいと思いました。

※担当講師の所属・役職は授業実施当時のものです。

「生命のがん教育」の実施を検討されている学校は健康対策課がん対策係までご連絡ください。

TEL：075-414-4766 電子メール：kentai@pref.kyoto.lg.jp